

# よろこ 喜びの たまもの 賜物

ステラは 腹を 立てていました。もう 何週間もの間、家族や 友達と、  
海へ 来るのを 楽しみにしていたのに、こんなことって・・・！ いそいそと バンの  
後ろから 荷物を 降ろすのを 手伝う 妹の プリシラを 見ていると、ますます 腹が  
立ってきました。（プリシラったら、何を するにも、陽気に ふるまうんだから！）

ステラは セーターをつかみ、ビーチで 遊ぶ おもちゃを バッグにつこんで、  
砂浜に 向かいました。

冷たい 風が 波を あわ立てています。ステラは 熱い ココアの 上に ミルクが  
あわ立っている 様子を 思い浮かべました。（ココアの 海で 泳ぐのって、楽しい  
だろうな。） そこで、はっと、自分が 腹を 立てて いたことを 思い出しました。

（何て いやな 風と 波なのかしら。おかげで、寒いし 波も 荒くて 泳げないじゃないの！）

ステラは 砂の 上に ドサツと 座りこみました。ほかの みんなは、もう 遊びに 夢中に  
なっていました。ジョエル、プリシラ、それに デイナは、追いかけて しています。  
デービッドは、雨風に さらされた 丸太の 割れ目の おくに、何か 生き物が いないか  
調べています。

まもなく、ステラの 両親は、これから どうするかを 話し合うために 子供達を 集めました。  
泳ぐには 寒すぎたからです。ジョエルは、祈って 主に 天気を 良くしてもらおうと 言いました。  
みんな、それは 良い 考えだと 思いました。お母さんは、たとえ 天気が よく ならなくても、  
イエス様は、みんなが 楽しめるように してくださるわと 言いました。





みんなは 祈り始めましたが、ステラは なかなか 祈りに 集中できません。(全くもう。) ステラは すねて、砂を けていました。

まもなく 子供達は、とりでを 作るための タオルと 竹ざおを、楽しそうに さがしに 行きました。とりでの中 には、食べたり 遊んだり できるし、悪天候からも 身を守れます。ステラは すわったまま、つま先で 砂を いじりまわして いましたが、ますます ふきげんになるばかりでした。つま先を じっと 見つめて いましたが、やがて ひざを かかえるようにして その上にあごを のせ、うとうとと まどろみ 始めました。

ステラは、暗い ほら穴の中を 歩いています。明かりは、ほら穴の 入り口から 差しこんでくる 光だけです。さらに ほら穴の おくに 入っていくと、周りが ますます 見えなくなって きました。そんな時、遠くの方で 小さな 明かりが ゆらめいて いるのが 見えました。

明かりの方に 近づいていくと、ちっちゃな ホタルが 岩の上にとまって 光っていたんだと わかりました。岩の そばには、小さな ガラス張りの ランタンが 付いた 棒が 立っています。

ステラは ランタンの 横に 付いた 小さな ふたを 開けて、中に ホタルを 入れました。すると、ほら穴の中が 美しい 明るい 光で 照らし出されました。ほら穴の中は、岩の上も 地面も 一面、美しい 宝石で おおわれているではありませんか。壁には、美しい 絵や タペストリーが かかって いました。宝石の 一つを 拾い上げると、とても うれしくて わくわくした 気分になりました…



サッカーのボールが背中<sup>せなか</sup>に当た<sup>あ</sup>って、ステラは目<sup>め</sup>をさしました。「ジョエル！」<sup>かのじょ</sup>彼女は笑<sup>わら</sup>いながらさげふと、ボールを拾<sup>ひろ</sup>って、彼<sup>かれ</sup>を追いかけました。子供<sup>こども</sup>達は砂<sup>すな</sup>浜<sup>はま</sup>で1時間<sup>いちじかん</sup>ほどボールをけっていたでしょうか。くたくたになると、みんな、とりでのそばの砂<sup>すな</sup>の上にドサッとたおれこみました。そして今<sup>こんど</sup>度は、何か<sup>なに</sup>の形<sup>かたち</sup>をした雲<sup>くも</sup>をさがし始めました。

「あっ、ウサギがいる。」

「リムジンもあるよ。」

「あれは、ゾウが鼻<sup>はな</sup>をふり上げ<sup>あ</sup>てるみたいだ。」

「あっち<sup>ほう</sup>の方<sup>かた</sup>にあるのは、ろうそくのついたたん生<sup>じょう</sup>ケーキみたいだよ。」みんなは口<sup>くち</sup>々に、雲<sup>くも</sup>の中<sup>なか</sup>に自分<sup>じぶん</sup>が見<sup>み</sup>つけた形<sup>かたち</sup>を言<sup>い</sup>い表<sup>あらわ</sup>したりして、笑<sup>わら</sup>いながら楽<sup>たの</sup>しく時<sup>じ</sup>間<sup>かん</sup>を過<sup>す</sup>ぎました。とても楽<sup>たの</sup>しかったので、ステラは、せっかくの海<sup>うみ</sup>辺<sup>べ</sup>での1日<sup>いちにち</sup>をだいなしにしまったと思<sup>おも</sup>っていた、冷<sup>つめ</sup>たい風<sup>かぜ</sup>やくもり空<sup>そら</sup>のことなどは、すっかり忘<sup>わす</sup>れてしまいました。

ステラは砂<sup>すな</sup>浜<sup>はま</sup>から飛<sup>と</sup>び起<sup>お</sup>き、水<sup>みず</sup>辺<sup>べ</sup>をスキップしながら、こんなに楽<sup>たの</sup>しい日<sup>ひ</sup>を与<sup>あた</sup>えて下<sup>くだ</sup>さったことをイエス様<sup>さま</sup>に感<sup>かん</sup>謝<sup>しゃ</sup>し、また、さっきまでひどくふきげんだったことをイエス様<sup>さま</sup>にあやまりました。主<sup>しゅ</sup>が愛<sup>あい</sup>して下<sup>くだ</sup>さっていることについて考<sup>かんが</sup>えていると、心<sup>こころ</sup>に語<sup>かた</sup>りかける主<sup>しゅ</sup>の声<sup>こゑ</sup>が聞<sup>き</sup>こえました。

「暗<sup>くら</sup>いほら穴<sup>あな</sup>は、君<sup>きみ</sup>がとてふきげんだった時<sup>とき</sup>の心<sup>こころ</sup>の中<sup>なか</sup>みたいだ。」とイエス様<sup>さま</sup>が言<sup>い</sup>いました。「ほら穴<sup>あな</sup>の中<sup>なか</sup>で見<sup>み</sup>つけたホタルは、わたしが君<sup>きみ</sup>のために用<sup>よう</sup>意<sup>い</sup>している喜<sup>よろこ</sup>びの賜<sup>たま</sup>物<sup>もの</sup>みたいなものだよ。君<sup>きみ</sup>は時<sup>とき</sup>々<sup>とき</sup>、わたしのことや、わたしが与<sup>あた</sup>えたいと願<sup>ねが</sup>っている喜<sup>よろこ</sup>びを忘<sup>わす</sup>れてしまうようだね。それは、ネガティブな<sup>かな</sup>ことや悲<sup>かな</sup>しいことばかり考<sup>かんが</sup>えてしまうからだよ。

だけど、わたしを賛<sup>さん</sup>美<sup>び</sup>すると、わたし<sup>あい</sup>の愛<sup>あひ</sup>がもたらす喜<sup>よろこ</sup>びが君<sup>きみ</sup>の人生<sup>じんせい</sup>を照<sup>て</sup>らし、わたしが君<sup>きみ</sup>のために用<sup>よう</sup>意<sup>い</sup>している宝<sup>たから</sup>が見<sup>み</sup>えてくるんだ。たとえ腹<sup>はら</sup>が立<sup>た</sup>つような、あるいはむずかしい状<sup>じょう</sup>況<sup>きやう</sup>でも、わたしはいつも、君<sup>きみ</sup>のための愛<sup>あい</sup>と幸<sup>しあわ</sup>せの宝<sup>たから</sup>を用<sup>よう</sup>意<sup>い</sup>しているからね。」



ステラはうれしくなりました。そして、大切な教訓を思い出させて下さったことで、イエス様に感謝を表したいと思いました。

「イエス様、つま先の10本の指で砂を感じる事ができることを感謝します。走ったり飛びはねまわったり、寒くなければ泳ぐことさえできることも感謝します！それからイエス様、たとえ泳げなくても、今日はいつもとちがったことをして楽しく過ごせたことも感謝します。友達といっしょに遊べて、とても楽しかったです。それから、持って来たおいしいおやつも感謝します。…」

最初ステラは、イエス様に感謝できることをたくさんは思いつけないだろうと思っていましたが、いったん始めてみると、止まらなくなっていました！

ふと、ステラは特別なことが起きたことに気がきました。風がやんだのです。海もおだやかになっていました。見上げると、雲の間から青空が広がりつつあります。「やったー！結局は泳げるのね！」ステラはとんぼ返りをして、しりもちをつきました。笑いながら砂をはらうと、みんなのところへ走って行きました。みんなも天気がよくなっていることに気付いたかどうか、確かめなくては。

(何と言っても、最高なのは…)と彼女は思いました。(海辺での最高の1日になるだろうってわかる前に、ハッピーになれたこと。周りで何が起きていようと、イエス様が下さった喜びと光に気持ちを集中させることができるんだものね。)

